

グローバルCOE  
**心の社会性に関する教育研究拠点**

The Center for the Sociality of Mind

# Newsletter

9

July 4, 2011

北海道大学大学院文学研究科・教育学研究院・経済学研究科  
カリフォルニア大学サンタバーバラ校進化心理学センター

## CONTENTS

2 GCOE  
共催ワークショップ

一般公開ワークショップ

4 書籍紹介  
PD紹介

5 2010年度業績一覧

当GCOEの教育・研究活動を支援している北海道大学社会科学実験研究センターでは、センター長が交代いたしました。これまでセンター長を務めた山岸俊男に代わり、亀田達也がGCOEリーダーと社会科学実験研究センター長を兼務します。



北海道大学大学院  
文学研究科教授  
**亀田 達也**

## 新センター長挨拶

「心の社会性」に関する私たちのGCOEプログラムも、いよいよ最終年度に入り、これまでの教育研究活動を総括し、今後のさらなる展開を準備する時期を迎えています。

幸いにも、本拠点の若手たちは、過去4年の間に、5件の国際学術賞、17件の国内学術賞(第1回日本学術振興会「育志賞」を含む)を授与されるなど、目覚ましい成果を収めています。また、国際学術誌への論文公刊数や論文被引用数などの面でも、国際

的に発信できる研究者として順調に成長しています。

拠点としての研究活動面では、玉川大学脳科学研究所をはじめとする脳科学者とのコラボレーションや、文部科学省特定領域研究「実験社会科学—実験が切り開く21世紀の社会科学—」における経済学・政治学研究者との協力が進行しています。今後はこうした動きを、GCOEの基盤となっている「北海道大学社会科学実験研究センター(Center for Experimental Research in Social Sciences 以下CERSS)」での活動を軸にさらに加速していく計画です。

「心の社会性」というテーマは、東日本大震災を経た今日、益々その重要性を増しています。研究者の役割とは何か、この問いを噛みしめながら一步一步みんなで努力していく所存です。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

## GCOE共催ワークショップ Workshop on Human Nature and Institutions

●日時：2011年4月3日-5日

●場所：Sage Conference Room, Building 551, room 1314, University of California at Santa Barbara

本ワークショップは、CERSSとSage Center for the Study of Mind (UCSB), Center for Evolutionary Psychology (UCSB) の共催で行われました。



本ワークショップは、UCSB進化心理センターの共同センター長であるLeda Cosmides教授およびJohn Tooby教授の主催のもと、進化と文化、そして制度が人の心や行動に与える影響をテーマに、人類学、心理学、政治学などさまざまな分野の研究者が参集して行われた。3日間をかけて開催されたこのワークショップには、Pascal Boyer教授 (Washington University in St.Louis), Michael Bang Petersen 教授 (Aarhus University), Nicolas Baumard博士 (University of Pennsylvania) などが参加し、本GCOE拠点からは拠点前リーダーの山岸俊男特任教授が出席し、レクチャーを行った。

## 一般公開ワークショップ

共催：北海道大学社会科学実験研究センター



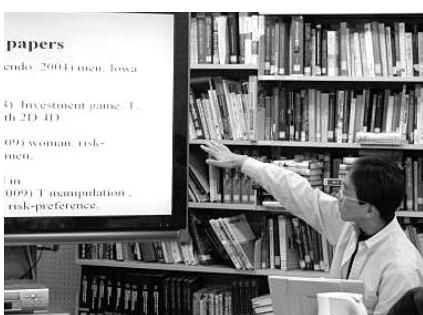
スピーカー  
**和多 和宏**  
(北海道大学)

### 「神経行動学から考える生まれと育ち」

●日時：2010年10月14日（木）

●場所：北海道大学文学研究科 E204室

和多博士は、音声発声学習及びその生成の神経基盤の理解を目的とした一連の研究を行っている。そしてその研究戦略として動物行動・神経分子生物学的手法を用い、ソングパートの構成（さえずり）・行動に着目している。具体的には、感覚運動学習の学習臨界（適応）期の制御機構、そして発声パターンの学習・生成機構の神経分子基盤にフォーカスした研究を現在進めている。動物が何をどのように学ぶかは、その動物個体の種特異的な生得的拘束とその個体の生育環境の両面の影響を受けている。その学習過程に脳内の神経回路を構成する神経細胞ではどのような物質的变化が起こり、それが学習そのものにどのような影響を与えていているのか。この問い合わせをめぐるこれまでの知見が報告され、フロアとの間で活発な議論が行われた。



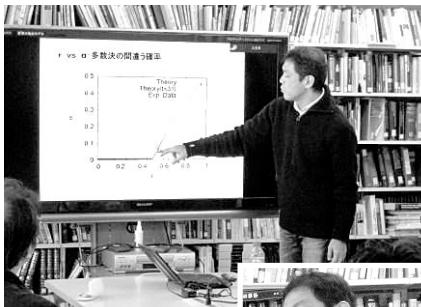
スピーカー  
**蔵 研也**  
(岐阜聖徳学園大学)

### 「テストステロンとリスク選好： 濃度変化が重要なのか？」

●日時：2010年11月5日（金）

●場所：北海道大学文学研究科 E204室

本発表では、女子短大の学生を被験者として、3週間にわたって行われたテストステロンT（以下Tと略記）の濃度の測定と、リスク選好指標、時間割引率、美人投票ゲーム、独裁者ゲームでの相手への送金額との関係が報告された。リスク選好指標には、choice task と matching task の2種類が用いられた。また被験者のT濃度を、グルコース投与によって一時的に低下させて、コントロール群との違いを検討した。結果、T の絶対濃度とリスク選好には、choice task, matching task ともにはつきりとした関係がなかった。また、30分間隔でのT濃度の変化と、matching taskで測ったリスク選好の間には有意な正相関があったが、choice taskとでは有意性までは示されなかつた。さらに、T 濃度の変化は、uncertainty 状況では影響を与えるが、risk状況下では弱いないしは影響を与えないことが報告された。

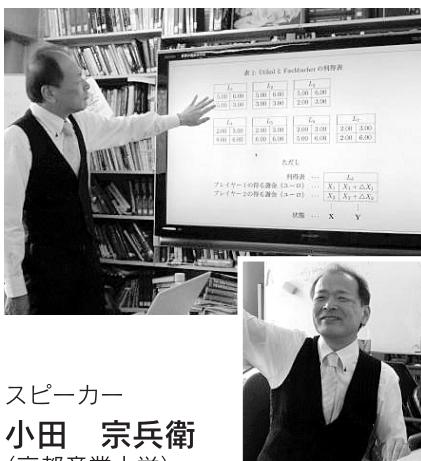


スピーカー  
**守 真太郎**  
(北里大学)

## 「情報力スケードは相転移か？」

- 日時：2011年1月27日（木）
- 場所：北海道大学文学研究科 E204室

本発表では、情報力スケードに関する研究成果が報告された。情報力スケードとは、ある選択肢への選択が時間を経るに従って次第に集中する現象である。この現象は、不確実な状況下で判断を迫られた際に、他人の行動を参考することによって生じる。他人を参照する行動自体は、十分な情報がない場合には合理的なものだが、ある場合には情報力スケードのような群集行動を引き起す。守博士は、情報力スケードが相転移であるかを検討する投票実験を行っている。本ワークショップではその実験結果が報告され、理論的インプリケーションについて議論が交わされた。

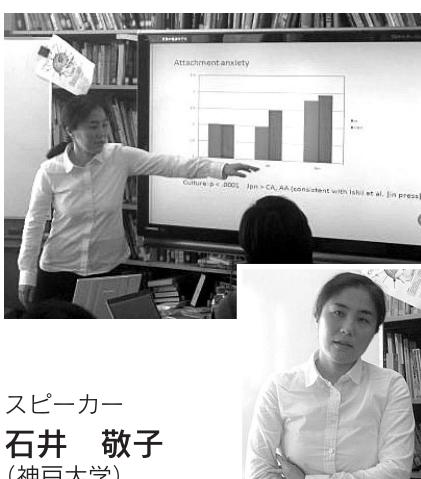


スピーカー  
**小田 宗兵衛**  
(京都産業大学)

## 「実験哲学と実験経済学」

- 日時：2011年2月17日（木）
- 場所：北海道大学文学研究科 E204室

小田教授は哲学実験を経済実験化する先駆的な試みを行っている。Knobe (2003) が、人々は悪い副作用を意図的とみなす一方で、良い副作用を意図的とみなさない傾向をもつことを指摘して以来、様々な哲学実験が行われている。それらの実験においては、被験者に様々な仮想的状況を示し、公平無私な第三者の意見を求めているが、被験者が正直に回答している保証がないという問題が含まれていた。そこで小田教授は、哲学実験を謝金に基づいて利己的行動を誘発させる経済実験に翻案し、被験者の回答の信頼度を高めた実験を実施した。その結果、人々が実験経済学で確認されている平等志向を強く持つ一方、他人もそうであるとは考えていないという結果が得られた。本ワークショップでは、その実験結果の詳細が報告された。

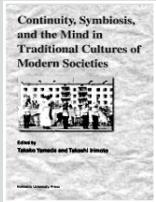


スピーカー  
**石井 敬子**  
(神戸大学)

## "Cultural norms moderate one's sensitivity to the disappearance of smiles associated with 5-HTTLPR genotypes"

- 日時：2011年2月22日（火）
- 場所：北海道大学文学研究科 E204室

Research has shown that, reflecting a high need to adjust to others' expectations, Japanese are more anxious than Americans in interpersonal contexts and more vigilant to signs of disapproval, such as the disappearance of a smile from another's face. Here we explored the extent to which genetic variations in serotonin transporter polymorphism (5-HTTLPR), a short allele of which is more associated with anxiety and risk avoidance than a long allele, contribute to cultural differences in response to the disappearance of smiles. European Americans and Japanese watched both happy-to-neutral and sad-to-neutral movies and judged the point at which the emotional expressions had disappeared. The expected cultural differences in the judgment for the offset of smiles were qualified by 5-HTTLPR genotypes. The offset of smile was faster for Japanese than European Americans in the s/s allele carriers. In contrast, it was faster for European Americans than Japanese in the s/l or l/l allele carriers.



## Continuity, Symbiosis, and The Mind in Traditional Cultures of Modern Societies

山田孝子・煎本 孝 編著

### ●本書の内容

世界各地の伝統社会では、グローバリゼーションが進行するなかで、共通の物質的、文化的基盤が形成されつつある。しかし、その一方では、さまざまな地域で伝統文化、民族文化の復興や活性化が起きているのも事実である。この現象は、単にそれぞれの社会における「伝統の創造」あるいは「過去の文化の残存」と捉えて済まされるものではない。ここにはそれぞれの社会における「伝統」の存続に向けての積極的な関与を読み取ることができる。しかも、「伝統」は新しく創造されるものではなく、連續性のなかで、現代社会にうまく共生する形で再活性化されるものということができる。現代の伝統社会に起きている現象は、現代社会における伝統の「連續性」と「共生」という視点から捉えることによって、理解可能となるのである。

本書は、さまざまな地域における事例研究をもとに、現代の伝統社会における民族文化の再活性化を現代社会が直面する新しい時代と環境に対抗するための心のはたらきという視点から、伝統文化の「連續性」や社会内の異なる集団間における象徴的連係、あるいは「共生」の構築について考察する。これをもとに、「連續性とは何か」、「共生とは何か」を明らかにし、集団の動態について、文化を鍵として解明し、現代社会における多様な文化の共存のための人類学的および心理学的パラダイムの構築を目指す。

本書は、北海道大学グローバルCOE「心の社会性に関する教育研究拠点」の研究成果であり、2008年11月1～2日に北海道大学文学部で開催されたグローバルCOE国際会議、および2003年7月5～12日にフィレンツェ大学で開催された第15回国際人類学・民族学会議の分科会「ポスト・ソヴィエトのトランスクーラシアにおける宗教と自然」で発表された論文を基に4部15章から構成されている。

## P D 紹介

GCOE最終年度を迎えるにあたり、研究・教育体制をさらに充実させるために、4人のPDを配置しました。



### Tom Wisdom

Received a dual PhD in Psychology and Cognitive Science from Indiana University in 2010. Current research interests are in social and collective behavior, especially learning, coordination and decision-making in groups. Outside of work, his hobbies include travel, art, music, comedy, and conversation.



### Stephen Le

I am a biological anthropologist with research interests in human cooperation, societal trust, patience, geographical factors that affect the development of societies, and international development. I am currently conducting postdoctoral research at Hokkaido University, Japan on societal variation in trust, crime patterns, and suicide rates. My research methods involve evolutionary theory, game theory, behavioral economic experiments, cross-national datasets, and field studies.



### 伊藤圭子

社会科学実験研究センター、博士研究員。スタンフォード大学博士課程卒業。サンフランシスコ市/郡 精神衛生局、アジア系地域メンタルヘルスセンター、スタンフォード・カウンセリングセンターなどの臨床経験を経て帰国。臨床心理士。研究・専門はADHDを始めとする発達障害・学習障害（児童・成人）の認知機能とその家族の研究、異文化適応、PTSD（被災者援助・児童虐待）、自己効力と動機付け。



### 樋口さとみ

社会科学実験研究センター、博士研究員。奈良先端科学技術大学院大学博士後期課程卒業。A T R 国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所、英ランカスター大学心理学部、英リバプール大学などで、fMRIを用いた脳機能研究に従事。運動イメージ、運動学習、ミラーニューロンシステムなどの発達過程と役割、またその男女差などに興味を持っている。最近は、意思決定における際の脳内メカニズムも研究対象としている。

# 2010年度の業績一覧

## 著書・分担執筆

### 【洋書】

- Konisi, T. (2010). Spiritual Issues in Supportive Cancer Care. In I. Olver (Ed.), *The MASCC Textbook of Cancer Supportive Care and Survivorship*. New York, USA: Springer.
- Mizutani, Y. (in press). Indigenous Peoples and Borderlands. In E. Barkan (Ed.), *Immigrants in America*. Santa Barbara, USA: ABC-Clio.
- Park, H., & Kitayama, S. (2010). Perceiving through culture: The socialized attention hypothesis. In K. N. N. Ambady, S. Shimojo and R. B. Adams, Jr. (Eds.), *Science of Social Vision* (pp. 75-89). Oxford, UK: Oxford University Press.
- Takahashi, T., Makino, T., Ohmura, Y., & Fukui, H. (in press). Employing delay and probability discounting frameworks for a neuroeconomic understanding of gambling behavior. In *Psychology of Gambling*. Carbondale, USA: Nova Publishing.
- Takahashi, T., Oono, H., Ohmura, Y., Kitamura, N., & Radford, M. H. B. (in press). Relationship between personality scales of impulsiveness and discounting of monetary gains and losses in smokers and never smokers. In *Men and Addiction*. Carbondale, USA: Nova Publishing.
- Yamada, T., & Irimoto, T. (in press). *Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies*. Sapporo: Hokkaido University Press.
- Yuki, M. (in press). Intragroup relationships and intergroup comparisons as two sources of collectivism. In G. J. Leonardelli, R.M. Kramer, & R.W. Livingston (Eds.), *Social cognition, social identity, and intergroup relations: A Festschrift in honor of Marilyn Brewer*. New York: Taylor & Francis.

### 【和書】

- 堀雅彦. (印刷中). 象徴・星野英紀・池上良正・氣田雅子・島薗進・鶴岡賀雄 (編). 宗教学事典. 東京: 丸善.
- 石崎千景. (印刷中). 人間関係と認知. 藤森立男・小嶋正敏 (編). 人間関係の心理. 東京: 誠信書房.
- 亀田達也. (2010). アージ理論. 認知の共有化. サンク・コスト効果. 海保博之・松原厚・竹村和久・北村英哉・住吉チカ (編). 感情と思考の科学事典. 東京: 朝倉書店.
- 亀田達也・村田光二. (2010). 複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間(改訂版). 東京: 有斐閣.
- 川人光男・大隅典子・山岸俊男・唐津治夢. (2010). 脳研究と社会科学. 脳と社会: 誤解を解き未来を読む. 京都: 化学同人.
- 伊藤圭生. (2010). ADHD(注意欠陥・多動性障害)の診断. 松下正明・浅井昌弘・中根允文 (編). 精神科診療データブック (pp. 244-275). 東京: 中山書店.
- 上別府圭子・伊藤圭子・沖野伸治・瀬戸光・中村晃士・小野和哉. (2010). 家族機能・思春期関連検査. 松下正明・浅井昌弘・中根允文 (編). 精神科診療データブック (pp. 217-243). 東京: 中山書店.
- 横洋一. (2010). 法言語学. 仲真紀子 (編). 犯罪心理学—ビギナーズガイド: 世界の捜査・裁判・矯正の現場から (pp. 129-146). 東京都: 有斐閣.
- 横洋一. (2010). 友人関係の発達. 榎本博明 (編). 発達心理学 (pp. 123-139). 東京都: おうふう.
- 増田貴彦・山岸俊男. (2010). 文化心理学(上下). 東京: 倍風館.
- 仲真紀子. (印刷中). どうすれば子どもの話を聞くことができるか? 目撃証言の信用性. 袖井孝子・内田伸子 (編). 子どもの暮らしの安全・安心 (Vol. 2). 東京: 金子書房.
- 仲真紀子. (編集中). 裁判への被害者参加. 現代のエスプリ. 東京: 至文堂.
- 仲真紀子. (編集中). 裁判員の法的知識と心理学的知識: 裁判員制度への動機付けと知識の問題. 現代のエスプリ. 東京: 至文堂.
- 仲真紀子. (印刷中). 子どもの目撃証言. 越智啓太ほか (編). 法と心理学ハンドブック. 東京: 朝倉書店.
- 仲真紀子. (印刷中). 子どもは目撃した人物を識別できるか. 袖井孝子・内田伸子 (編). 子どもの暮らしの安全・安心 (Vol. 1). 東京: 金子書房.
- 仲真紀子. (印刷中). 対話. 三宮真智子 (編). 教育心理学. 東京: 学文社.
- 仲真紀子. (印刷中). 発達の基礎. 三宮真智子 (編). 教育心理学. 学文社.
- 仲真紀子. (印刷中). 法律. 子安增生・齋木潤・友永雅己・大山泰宏 (編). 心理学概論. 京都: ナカニシヤ書店.
- 仲真紀子. (2010). 供述心理学. 司法面接. 橋本ほか (編). カウンセリング実践ハンドブック. 東京都: 丸善.
- 仲真紀子. (2010). 発達の諸相. 三宮真智子 (編). 教育心理学 (pp. 6-21). 東京: 学文社.
- 仲真紀子. (2010). 発達障害をもつ人の記憶と面接. 浜井浩一・村井敏邦 (編). 発達障害と司法—非行少年の遭遇を中心に(龍谷大・学矯正・保護研究センター叢書 第11巻) (pp. 144-158). 東京都: 現代人文社.
- 仲真紀子. (2010). 犯罪心理学—ビギナーズガイド: 世界の捜査・裁判・矯正の現場から. 東京都: 有斐閣..
- 西部忠. (2010). 進化経済学 基礎. 東京: 日本経済評論社.
- 大沼進. (印刷中). 社会的ジレンマと環境問題. 佐竹暁子・巣佐廉 (編). 生態学と社会科学の接点. 現代生態学講座4巻. 東京: 共立出版.
- 尾山智子. (2010). 犯罪者の矯正: 何が有効か. 東京都: 有斐閣.
- 白石祐章・仲真紀子. (印刷中). 認知面接. 越智啓太ほか (編). 法と心理学ハンドブック. 東京: 朝倉書店.
- 上官愛・仲真紀子. (2010). 嘘の発見. 仲真紀子 (編). 犯罪心理学—ビギナーズガイド: 世界の捜査・裁判・矯正の現場から (pp. 85-109). 東京都: 有斐閣.
- 宇都宮輝夫. (2010). コスマスとカオス. 宗教学事典 (pp. 390-391). 東京都: 丸善.
- 宇都宮輝夫. (2010). わずかばかりの勇気もて、死を迎えるを得ば—受容と绝望のはざまで死への道を求めて. 清水哲郎・島薗進(編). ケア従事者のための死生学 (pp. 286-299). 東京都: スーヴェルヒロカワ.
- 宇都宮輝夫. (印刷中). 現代社会の中の死. 清水哲郎・島薗進(編). ケア従事者のための死生学. 東京都: スーヴェルヒロカワ.
- 山岸俊男・メアリーリブレントン. (2010). リスクに背を向ける日本人. 東京: 講談社.
- 山崎優子. (印刷中). 犯罪者プロファイリングと犯罪との関連付け. 仲真紀子 (編). 司法心理学入門. 東京: 有斐閣.
- 結城雅樹. (2010). 集団主義の人間関係. 藤森立男 (編). 人間関係の心理ベースペクトイブ. 東京: 誠信書房.

## 学術論文

### 【国際誌】

- Cheon, T., & Takahashi, T. (in press). Interference and inequality in quantum decision theory. *Physics letters A*.
- Hashimoto, H., Li, Y., & Yamagishi, T. (in press). Beliefs and Preferences in Cultural Game Players and Cultural Agents. *Asian Journal of Social Psychology*.
- Horita, Y. (2010). Punishers may be chosen as providers but not as recipients. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, 1(1), 6-9.
- Inukai, K., Shinada, M., Tanida, S., Takahashi, C., Mifune, N., Takagishi, H., Horita, Y., Hashimoto, H., Yokota, K., Kameda, T., Yamagishi, T., & Takahashi, T. (2010). Salivary alpha-amylase levels and big five personality factors in adults. *Neuroendocrinology Letters*, 31(6), 771-774.
- Irimoto, T. (2010). Northern Studies and Ainu Culture. *Northern Studies Association Bulletin*(14), 1-5.
- Irimoto, T. (in press). Revival of the Ainu Bear Festival: The Mind, Ethnic Symbiosis and Continuity of Traditional Culture. *Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies*.
- Irimoto, T. (in press). Ritual and Discourses on Nature among the Changing Post-Soviet Reindeer Herders in Northern Kamchatka. *Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies*.
- Ishihara, K. (in press). Technological Artifacts and Intentionality?Toward a Phenomenology of Technology. *Identity and Alterity: Phenomenology and Cultural Traditions*, 33-41.
- Ishii, K., Kobayashi, Y., & Kitayama, S. (2010). Interdependence modulates the brain response to word-voice incongruity. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 5, 307-317.
- Kameda, T., & McDermott, R. (in press). On the hunting (also) for family hypothesis. *Current Anthropology*.
- Kameda, T., Tsukasaki, T., Hastie, R., & Berg, N. (2011). Democracy under uncertainty: The wisdom of crowds and the free-rider problem in group decision making. *Psychological Review*, 118, 76-96.
- Kikuchi, H., Mifune, N., Niino, M., Ohbu, S., Kira, J., Kohriyama, T., Ota, K., Tanaka, M., Ochi, H., Nakane, S., Maezawa, M., & Kikuchi, S. (in press). Impact and characteristics of quality of life in Japanese patients with multiple sclerosis. *Quality of Life Research*.
- Loughnan, S., Leidner, B., Doron, G., Haslam, N., Kashima, Y., Tong, J., et al. (2010). Universal biases in self-perception: Better and more human than average. *British Journal of Social Psychology*, 49, 627-636.
- Matsuyama, N. (2010). The psychological foundations of Alfred Marshall's economics: an interpretation of the relationship between his early research of psychology and his economics. *Erasmus Journal of Philosophy and Economics*, 3(2), 148-150.
- Naka, M., Okada, Y., Fujita, M., & Yamasaki, Y. (in press). Citizen's psychological knowledge, legal knowledge, and attitudes toward participation in the new Japanese legal system, Saiban-in seido. *Psychology, Crime & Law*.
- Saito, T. (in press). The Survival and Symbiosis of Blacksmiths in Bishnupur, India. *Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies*.
- Schug, J., Yuki, M., & W.W. M. (2010). Relational Mobility Explains Between- and Within-Culture Differences in Self-Disclosure to Close Friends. *Psychological Science*, 21(10), 1471-1478.
- Takahashi, T., Takahashi, T., Yamagishi, T., Shinada, M., Inukai, K., Tanida, S., Mifune, N., Horita, Y., Hashimoto, H., LiY., & Kameda, T. (2010). Salivary testosterone levels and autism-spectrum quotient in adults. *Neuroendocrinology Letters*, 31(6), 837-841.
- Takahashi, H.; Kameshima, S.; Schug, J.; Koizumi, M.; Fujii, T.; Yamagishi, T. (2010). Cognitive and emotional perspective-taking in economic decision-making in the ultimatum game. *Center for the Study of Cultural and Ecological Foundations of the Mind Working Paper Series*, 114.
- Takahashi, T. (in press). A neuroeconomic theory of bidirectional synaptic plasticity and addiction. *Medical hypotheses*.
- Takahashi, T. (in press). Psychophysics of the probability weighting function. *Physica A*.
- Takahashi, T. (in press). A social discounting model based on Tsallis' statistics. *Physica A*.
- Takahashi, T. (in press). Toward molecular neuroeconomics of obesity. *Medical hypotheses*.
- Takahashi, T., Makino, T., Ohmura, Y., & Fukui, H. (in press). Employing delay and probability discounting frameworks for a neuroeconomic understanding of gambling behavior. *International Journal of Psychology Research*.
- Takahashi, T., Oono, H., Ohmura, Y., Kitamura, N., & Radford, M. H. B. (in press). Relationship between personality scales of impulsiveness and discounting of monetary gains and losses in smokers and never smokers. *International Journal of Psychology Research*.
- Takahashi, T., Oono, H., & Radford, M. H. B. (in press). The relationship between depressive mood and impulsivity in healthy and depressed patients. *Psychiatry Research Journal*.
- Takahashi, T., Shinada, M., Yamagishi, T., Inukai, K., Tanida, S., Mifune, N., et al. (in press). Stress hormones predict hyperbolic time-discount rates six months later in adults. *Neuroendocrinology Letters*.
- Takemura, K., Yuki, M., & Ohtsubo, Y. (2010). Attending inside or outside: A Japan-US comparison of spontaneous memory of group information. *Asian Journal of Social Psychology*, 13, 303-307.
- Tanida, S., & Yamagishi, T. (2010). Testing social preferences through differential attention to own and partner's payoff in a Prisoner's Dilemma game. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, 1, 31-34.
- Uehara, C. (2010). Anthropological Study on Ethnic Conflict Resolution by the Tibetan People: a Case of Hualong Hui Autonomous County, Haibei Prefecture, Qinghai Province, China. *Northern Studies Association Bulletin*(14), 7-9.
- Uehara, C. (in press). A Strategy for Coexistence: Case of the Festival at Temple W in Haidong District, Qinghai Province, China. *Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern*

## 2010年度の業績一覧

### Societies.

- Van Vugt, M., & Kameda, T. (in press). Evolutionary psychology of group processes. *Group Processes, Wisdom, T. N., & Goldstone. (in press). Imitation, innovation, and problem-solving in a networked group. Nonlinear Dynamics, Psychology, and Life Sciences.*
- Yamada, T., & Irimoto, T. (2010). Study Trends: Continuity of Traditional Cultures. *Northern Studies Association Bulletin*(14), 10.
- Yamagishi, T.; Hashimoto, H.; Cook, K. S.; Kiyonari, T. (2010). Modesty in Self-Presentation: A Comparison between the U.S. and Japan. *Center for the Study of Cultural and Ecological Foundations of the Mind Working Paper Series*, 116.
- Yamagishi, T.; Hashimoto, H.; Li, Y.; Schug, J. (2010). City Air Brings Freedom. *Center for the Study of Cultural and Ecological Foundations of the Mind Working Paper Series*, 115.
- Yamaguchi, M. (2010). Contemporary Development of Northern Hunting-Gathering Community. *Northern Studies Association Bulletin*(14), 5-7.
- Yamaguchi, M. (in press). A Struggle for Co-existence between the Euro-Canadians and the Kaska First Nations. *Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies*.
- Yeung, W. L. V., & Kashima, Y. (2010). Communicating Stereotype-Relevant Information: How Readily Can People Individuate? *Asian Journal of Social Psychology*, 13, 209-220.
- Yeung, W. L. V., & Kashima, Y. (in press). Culture and Stereotype Communication: Are people from Eastern cultures more stereotypical in communication? *Journal of Cross-Cultural Psychology*.
- Yeung, W. L. V.; Tsuchiya, K.; Loughnan, S.; Kashima, Y. (2010). An Unacknowledged Lay Belief: I am already benefited from an object once I possess it even before I utilize it. *Center for the Study of Cultural and Ecological Foundations of the Mind Working Paper Series*, 119.
- Yeung, W. L. V.; Yuki, M.; Chao, M. (2010). Do Americans find it easier to speak directly and Japanese find it easier to speak indirectly? *Center for the Study of Cultural and Ecological Foundations of the Mind Working Paper Series*, 112.

### 【国内誌】

- アラタ. (2010). 内モンゴルにおける生態環境の悪化について—内モンゴル・ウーシン旗の事例から. 北方学会報(14), 49-53.
- 藤井貴之・亀島信也・高岸治人. (2010). 集団との関係とネガティブな感情表出との関係: 最後通告ゲームを用いた実験. 関西福祉科学大学紀要, 14, 151-157.
- 橋本博文. (印刷中). 相互協調性の自己維持メカニズム. 実験社会心理学研究.
- 橋本博文・品田瑞穂・山岸俊男・三船恒裕・犬飼佳吾・高岸治人・堀田結季・李楊・清成透子・谷田林士・高橋知里. (2010). デフォルト戦略としての自己卑下バイアス——成人を対象とする実験研究——. Center for the Study of Cultural and Ecological Foundations of the Mind Working Paper Series, 117.
- 堀田結季・山岸俊男. (2010). 集団内における互恵性の適応基盤. 心理学研究, 81(2), 114-122.
- 煎本孝. (2010). 人類の進化と北方適応. 文人類學, 74(4), 541-565.
- 煎本孝. (2010). 北方学とアイヌ文化. 北方学会報(14), 1-4.
- 加地雄一・仲真紀子・花田安弘. (印刷中). 被験者実演課題における年齢効果と系列位置曲線. 教育工学会.
- 小林重人・栗田健一・西部忠・橋本敬. (2010). 地域通貨流通実験前後における貨幣意識の変化に関する考察—東京都武蔵野市のケースー. Center for the Study of Cultural and Ecological Foundations of the Mind Working Paper Series, 118.
- 小西賢吾. (2010). 中国のチベット系社会における僧侶教育の再構築 四川省・Shar Khog地方のボン教僧院を事例に. 北方学会報(14), 34-43.
- 小西達也. (2010). アメリカと日本のCPEを語る—両CPE経験者による対談. スピリチュアルケアを語る第3集>臨床の教育法の試み.
- 三船恒裕・山岸俊男・谷田林士・高橋知里・品田瑞穂・犬飼佳吾・高岸治人・堀田結季・橋本博文・清成透子・李楊・川村誠. (2010). 最小条件集団における内集団ひいきと心理特性との関連: 非学生サンプルを用いた検討. Center for the Study of Cultural and Ecological Foundations of the Mind Working Paper Series, 110.
- 峰岸雅俊. (2010). 北海道深川市メム地区における北海道移民の生存戦略. 北方学会報(14), 53-55.
- 室橋春光. (印刷中). 土曜教室の教育的意義 子ども発達臨床研究.
- 仲真紀子. (印刷中). 児童虐待における子どもの面接: 出来事を話す。そだちと臨床.
- 仲真紀子. (印刷中). 常識とは何か?—法と心理学の視点から— 理論心理学研究.
- 仲真紀子. (2010). 裁判員の知識と力: 市民が裁判を行うことについて. 法と心理, 9(1), 24-28.
- 仲真紀子. (2010). 司法面接とは何か: 心の健康(125).
- 仲真紀子. (2010). 子どもの証言と心理学鑑定. 科学, 80(6), 654-656.
- 仲真紀子. (2010). 性的虐待事例における非加害親への支援. そだちと臨床(8), 127-128.
- 奥山史亮. (印刷中). ルーマニア民族主義運動をめぐるエアード批判とクリアース. 宗教倫理学会.
- 尾崎一郎. (2010). マンションにおける秩序と時間. ジュリスト, 1402, 51-57.
- 品田瑞穂・山岸俊男・谷田林士・高橋知里・犬飼佳吾・小泉径子・横田晋大・三船恒裕・堀田結季・高岸治人・橋本博文. (2010). 他者の協力行動の推測の正確さを規定する要因——魅力度と表情豊かさ——. 心理学研究, 81, 149-157.
- 竹村明子. (2010). 実践教育の効果: 介護福祉士養成課程における実習体験と介護への自己決定性の関係. 教育心理学研究, 58(2), 176-185.
- 上原周子. (2010). 集落間における畠の水争いとその解決 中国青海省海東地区における事例から. 北方学会報(14), 21-34.
- 上宮愛・仲真紀子. (2010). 幼児による人形・道具を用いた出来事の報告. 発達研究, 24, 25-36.
- 宇都宮輝夫. (印刷中). 死生観を学ぶことの意義と限界. 死生学年報, 6.
- 宇都宮輝夫. (印刷中). 人生の受容と死の受容. 北海道大学文学研究科ライブラリ『老い翔る』.
- 山田孝子・煎本孝. (2010). 研究動向: 伝統文化の継続. 北方学会報(14), 55-56.
- 山口未花子. (2010). 現代社会を生きる狩猟採集民—カナダ、ユーコン準州のカスカの事例から. 北方学会報(14), 5-21.

### 学会発表等

#### 【国際学会】

- Hashimoto, H., Ohashi, K., & Yamagishi, T. (2011). Common Beliefs, Behaving by Anticipating Other's Response, and Self-sustaining Mechanism of Japanese Interdependence. Poster presented at the 12th annual meeting of the society for personality and social psychology. San Antonio, Texas, USA.
- Hashimoto, H., Wataguchi, M., & Yamagishi, T. (2011). Two Faces of Interdependence: Cooperativeness and Fear of Negative Reputation. Poster presented at the 7th SPSP Cultural Psychology Pre-Conference. San Antonio, Texas, USA.
- Hashimoto, H., & Yamagishi, T. (2010). Correlations among measures showing cultural differences in psychological tendencies and cognitive styles. Poster presented at the 20th International Congress of the International Association for cross-cultural psychology. Melbourne, Australia.
- Hidaka, M., Toyomaki, A., & Murohashi, H. (2010). Cognition of facial emotion on social context: an event-related potential study. Poster presented at the 29th International Congress of Clinical Neurophysiology. Kobe International Conference Hall.
- Inoue, A., & Naka, M. (2010). Effect of repeated forensic interviews. Poster presented at the International Association of Applied Psychology. Melbourne.
- Irimoto, T. (2010). Ecological Implications of Tibetan Buddhism: Exorcising Rites in Village and Monastic Festivals. Paper presented at the XXth IAHR Quinquennial World Congress. Toronto.
- Iwata, M., & Murohashi, H. (2010). The effect of phonological awareness level on auditory word learning using caption in Japanese English learners. Poster presented at the 61st Annual conference of International Dyslexia Association. Phoenix Convention Center.
- Janssen, S. M. J., Naka, M., & Friedman, W. J. (2010). Why does life appear to speed up as people get older? Poster presented at the Fifty-First Annual Meeting of the Psychonomic Society. St. Louis, MO. St. Louis, USA.
- Kameda, T. (2010). Herd behavior. Paper presented at the Contract governance symposium. Humboldt University, Berlin.
- Kichiji, N., Nishibe, M. (Both are the first authors). (2011). The Comparison in Transaction Efficiency between Dispersive and Concentrated Money Creation. Paper presented at the International Conference on Community and Complementary Currencies 2011. Lyon, France.
- Kiyonari, T., Takahashi, T., Schug, J., Inukai, K., Shinada, M., Yamagishi, T., et al. (2010). Males with stress-induced cortisol elevation are judged to be cooperators. Paper presented at the 22nd Annual Meeting of the Human Behavior and Evolution Society. Eugene, Oregon, USA.
- Konishi, T. (2010). Chaplain's Role in the Alleviation of Death-Anxiety. Paper presented at the Multinational Association of Supportive Care in Cancer. Vancouver, Canada.
- Kurita, K., Miyazaki, Y., & Nishibe, M. (2011). Relationship between Shopping Streets and Community Currency Circulation: A Case Study of the City of Musashino, Tokyo, Japan. Paper presented at the International Conference on Community and Complementary Currencies 2011. Lyon, France.
- Li, Y., Yamagishi, T., Schug, J., Liu, J., & Wan, F. (2010). Trust and signaling between China and Japan in experimental studies. Paper presented at the 20th International Congress of the International Association for cross-cultural psychology. Melbourne, Australia.
- Loughnan, S., Leidner, B., Kashima, Y., Doron, G., Tong, J., & Yeung, W. L. V. (2010). Humanity across cultures: a six nation study of conceptions of humanity. Paper presented at the XXth International Congress of Cross Cultural Psychology (IACCP). Melbourne, Australia.
- Mashima, R., & Takahashi, N. (2010). Indirect reciprocity may or may not solve the social dilemma. Poster presented at the 22nd Annual Meeting of Human Behavior and Evolution Society. Eugene, OR.
- Mori, Y., & Ohnuma, S. (2010). The Effect of Participating in Community Activity on Self and Collective Efficacy: An intervention in class works of junior high school in Sapporo. Paper presented at the the 27th International Congress of Applied Psychology (pp. 1307-1308). Melbourne, Australia.
- Nabata, Y., & Naka, M. (2010). The effect of positive and negative leading post-event information on eyewitness memory within participants. Poster presented at the International Congress of Applied Psychology. Melbourne, Australia.
- Naka, M. (2010). Life script and legal age. Poster presented at the International Conference on Autobiographical Memory: Theoretical Perspectives of Autobiographical Memory. Aarhus, Denmark.
- Naka, M., Futakuchi, Y., & Koyama, K. (2010). A training program on investigative interviewing with children: Three-day training and its effect on the interview. Poster presented at the 3rd International Conference on Investigative Interview. Stavanger, Norway.
- Nisibe, T. (2011). Local currencies as integrative communication media for evolutionist institutional design. Paper presented at the International Conference on Community and Complementary Currencies 2011. Lyon, France.
- Ohnuma, S. (2010). Effects of communication between government officers and citizens on procedural fairness and social acceptance: A case study of waste management rule in Sapporo. Paper presented at the International Society for Justice Research 13th Biennial Conference (pp. 43). Banff, Canada.
- Ohnuma, S., Hirose, Y., Suguri, J., & Maeda, H. (2010). Effects of value similarity and procedural fairness on social acceptance: a case study of tram system in Neuss. Paper presented at the 21st International Association of People-Environment Studies Conference (pp. 169-170). Leipzig, Germany.
- Ohtomo, S., & Ohnuma, S. (2010). The effect of prompt by bespeaking on pro-environmental behavior: An intervention study for reducing plastic bags at supermarkets. Paper presented at the 27th International Congress of Applied Psychology (pp. 247). Melbourne, Australia.
- Okumura, Y., & Murohashi, H. (2010). Orthographic activation in auditory word processing by Japanese English learners: interconnection and interaction between phonology and orthography. Poster presented at the 61st Annual conference of International Dyslexia Association. Phoenix Convention

- Center.
- Onoda, R., & Takahashi, N. (2010). *The emergence of in-group favoring behavior: generalized exchange takes place within group boundaries*. Poster presented at the 22st Annual Meeting of Human Behavior & Evolution Society. Eugene.
- Oyama, T., & Naka, M. (2010). *Narratives of Japanese elementary school children about positive and negative events*. Poster presented at the Theoretical Perspective on Autobiographical Memory. Denmark, Aarhus.
- Roukang, H., & Yuki, M. (2011). *Why do Westerners help strangers more frequently than Easterners?* Poster presented at the 12th annual meeting of Society for personality and Social Psychology in San Antonio, Texas, U.S.
- Sato, K., & Yuki, M. (2011). *A socio-ecological approach to social rejection and anxiety: The case of Taijin Kyofu-sho*. Poster presented at the 12th annual meeting of Society for personality and Social Psychology in San Antonio, Texas, U.S.
- Sato, K., & Yuki, M. (2011). *A socio-ecological approach to social rejection and anxiety: The case of Taijin Kyofu-sho*. Poster presented at the 7th SPSP Cultural Psychology Pre-Conference in San Antonio, Texas, U.S.
- Schug, J., Takagishi, H., Okada, H., Miyazaki, M., & Yamagishi, T. (2010). *The impact of theory of mind on fairness and reciprocity in preschool children*. Paper presented at the 22th Annual Meeting of Human Behavior and Evolution Society. Eugene.
- Schug, J., Yuki, M., & Maddux, W. W. (2010). *The impact of relational mobility on between- and within-culture differences in self-disclosure toward close friends*. Paper presented at the XXth Congress of the International Association for Cross Cultural Psychology. Melbourne, Australia.
- Schug, J., Takagishi, H., Okada, H., Miyazaki, M., Yamagishi, T. (2011). *The impact of cognitive perspective taking on fairness and reciprocity in preschool children*. Poster presented at the 12th annual meeting of Society for personality and Social Psychology in San Antonio, Texas, U.S.
- Takagishi, H., Takahashi, T., Fukui, H., & Yamagishi, T. (2010). *The neural basis of responses to unfairness in the ultimatum game and impunity game*. Poster presented at the Joint Tamagawa-Keio-Caltech Lecture Course on Neuroeconomics. Keio University.
- Uemiya, A., & Naka, M. (2010). *The development of the understanding of truth and lies from preschoolers to undergraduate students*. Poster presented at the International Conference on Autobiographical Memory: Theoretical Perspectives of Autobiographical Memory. Aarhus, Denmark.
- Uemiya, A., & Naka, M. (2010). *Using normal dolls in children's event reporting : Reporting other people's actions*. Paper presented at the 3rd International Conference on Investigative Interview. Stavner, Norway.
- Watanabe, H., Yokosawa, K., & Murahashi, H. (2010). *The method for clear distinction between short and long duration MMNm*. Poster presented at the 29th International Congress of Clinical Neurophysiology. Kobe International Conference Hall.
- Wisdom, T. N., & Goldstone. (2010). *Social Learning and Cumulative Mutual Improvement in a Networked Group*, Paper presented at the 32nd Annual Conference of the Cognitive Science Society. Portland, Oregon.
- Yamagishi, T. (2010). *Micro-Macro Dynamics of the Cultural Construction of Reality: An Institutional Approach to Culture*. Paper presented at the 27th International Congress of Applied Psychology. Melbourne, Australia.
- Yamagishi, T. (2010). *Trust and social intelligence*, Paper presented at the Fourth IFIP International Conference on Trust Management. Iwate Prefectural University.
- [国内学会]**
- 足立明夏. (2010). 認知心理学的アプローチを用いた臨床心理学的研究の可能性を探る(2)―研究者と臨床家のconspiracyは可能か―. 日本心理学会第74回大会.
- 足立明夏・室橋春光・河西哲子. (2010). 自閉症スペクトラムにおける文脈変化時の意味ネットワーク活性化—事象関連電位を用いた検討—. 日本心理学会第74回大会.
- 会津津平・結城雅樹・大石繁宏. (2010). 他者からの排斥と受容によって変動する自尊心の日米差—社会生態学的アプローチからの検討. 日本社会心理学会第51回大会.
- 安藤香織・依藤佳世・大沼進・杉浦淳吉・菊地真理. (2010). 社会規範が子どもの環境配慮行動に及ぼす影響 -親子ペアによる分析. 日本社会心理学会第51回大会発表論文集 (pp. 704-705).
- 小出亜耶子. (2010). 日本における風の怪異と民俗信仰. 日本宗教学会.
- 韓若康・結城雅樹. (2010). 関係流動性が援助行動に及ぼす影響: 米国の社会調査データを用いて. 日本社会心理学会第51回大会.
- 橋本博文. (2010). 自己卑下的自己提示戦略に関する日米比較研究: 文化的信念とエラーマネジメント. 日本心理学会第74回大会.
- 橋本博文・三船恒裕. (2010). 利他性と評判——独裁者ゲームを用いた研究——. 日本グループ・ダイナミクス学会第57回大会.
- 橋本博文・大橋加奈子・山岸俊男. (2010). 相互協調行動を支える制度の基盤. 日本社会心理学会第51回大会.
- 橋本博文・渡口真美・山岸俊男. (2010). 社会的ストレスに対する敏感さと文化特定の信念との関連. 北海道心理学会第57回大会.
- 日高茂暢・豊巻敦人・河西哲子・室橋春光. (2010). 事象関連電位を用いた社会的文脈における表情認知過程の検討—ERP成分N400を指標とした検討—. 日本心理学会第74回大会.
- 日高茂暢・豊巻敦人・室橋春光. (2010). 社会的文脈から予期される感情と表情の意味処理に関する検討. 第28回生理心理学会学術大会.
- 堀田結孝・山岸俊男. (2010). 感情的行動の適応基盤: 進化シミュレーションによる検討. 日本社会心理学会第51回大会.
- 堀田結孝・山岸俊男. (2010). 規範逸脱者への制裁が印象に及ぼす効果の検討. 北海道心理学会第57回大会.
- 稻葉美里・高橋伸幸. (2010). 交換形態が社会的連帯に及ぼす影響. 日本人間行動進化学会.
- 井上愛弓・仲真紀子. (2010). 質問の形式が想起内容の正確性に及ぼす影響—司法面接の手法を使用して—. 日本心理学会第74回大会.
- 井上愛弓・仲真紀子. (2010). 面接手法が繰り返し想起された物語に及ぼす影響. 法と心理学会.
- 石橋伸幸・亀田達也・河口朋広. (2010). 集団作業時の貢献量個人間格差とその普遍性: 二八の法則の実証的検討. 日本社会心理学会第51回大会.
- 岩田みちる・室橋春光. (2010). 音韻意識が外国语教育に与える影響について—潜在的なディスレクシア児への英語教育—. 第10回発達性ディスレクシア研究会.
- 岩田みちる・室橋春光・河西哲子. (2010). 複数話者の日本語母音による音韻変化検出の検討. 日本心理学会第74回大会.
- 亀田達也・坂上雅道・長谷川晃. (2010). 分配の正義をめぐる一考察. 意思決定科学・法哲学・脳科学の連携による「正義」の行動的・神経的基盤の解明(1). 日本社会心理学会第51回大会.
- 片桐正敏. (2010). 社会性の機能要素の追求—知覚・注意・遂行機能—. 日本心理学会第74回大会.
- 伊藤圭子. (2010). コントロールと動機づけ: 自己効力の文化適応. 日本教育心理学会、第52回総会.
- 小林大州介. (2010). 人工物進化の構造: 社会・経済システム学会.
- 小西達也. (2010). がん医療におけるスピリチュアルケア専門職の必要性. 日本癌治療学会.
- 小西達也. (2010). スピリチュアルケア定義における基盤人間観検討の必要性. 日本医学哲学・倫理学会.
- 小西達也. (2010). ビリーフに依存せず創造的に現実と向き合うことのサポートとしてのスピリチュアルケア. 日本臨床死生学会.
- 小西達也. (2010). 人間文化における不死(Immortality)概念と終末期患者ケア. GCOE院生セミナー.
- 小杉素子. (2010). 科学技術のリスク認知における専門家の乖離感と価値観の関連. 日本社会心理学会第51回大会.
- 真島理恵・高橋伸幸. (2010). 「感情に駆られた利他行動」は適応的か? 日本社会心理学会第51回大会.
- 真島理恵・高橋伸幸. (2010). 一般交換との連絡による社会的ジレンマ解決—強制的ブレイ・選択的ブレイバーダイアム間の比較—. 日本人間行動進化学会第3回大会.
- 松本恵良・小野田竜一・神信人. (2010). 二次的ジレンマ問題に対する罰の過大視の効果. 日本人間行動進化学会第3回大会.
- 松本恵良・小野田竜一・神信人. (2010). 罰の過大視による二次的ジレンマ問題の回避. 日本グループ・ダイナミクス学会第57回大会.
- 松山直樹. (2011). マーシャル経済学におけるアメリカ研究旅行の影響. 進化経済学会.
- 三船恒裕・横田晋大・中西大輔. (2010). 集団間葛藤が協力を導くプロセス: 社会的価値志向性の違いに注目して. 日本グループ・ダイナミクス学会第57回大会.
- 三上真寛. (2011). 経済制度における費用と進化. 進化経済学会.
- 三浦亜利紗・品田瑞穂・山岸俊男. (2010). 社会的リスク回避傾向とゲーム行動. 日本人間行動進化学会第3回大会..
- 宮崎義久. (2010). 中山間地域の活性化と地域通貨—高知県いの町「NPO法人土佐の森・救援隊」の活動を中心として. 地域活性学会第2回大会.
- 宮崎義久. (2010). 大恐慌期米国スクリップ再考: 地域通貨の経済社会的な機能を問う. 経済社会学会第46回大会.
- 森康浩・大沼進. (2010). 地域活動が参加者のエンパワーメントに与える効果: 中学校での事例調査. 日本社会心理学会第51回大会発表論文集 (pp. 186-187).
- 村田藍子・亀田達也. (2010). 表情模倣の機能を探る—一般人を対象とした概念的追試と個人差を規定する要因の検討—. 日本社会心理学会第51回大会.
- 室橋春光. (2010). 社会性の機能要素の追求—知覚・注意・遂行機能—(指定討論). 日本心理学会第74回大会.
- 室橋春光. (2010). 青年期QOLと発達障害特性との関連性—単位制高校生と大学生の比較—. 日本発達障害学会第45回大会.
- 室橋春光・奥村安寿子. (2010). 日本語を母語とする読み書き困難児に対する英語指導の事例—単語学習における困難とフォニックスの指導効果—. 日本LD学会第19回大会.
- 名畠康之・仲真紀子. (2010). 正導・誤導事後情報が目撃記憶に及ぼす影響-出来事の情動性に着目して. 法と心理学会.
- 名畠康之・仲真紀子. (2010). 正導・誤導事後情報が目撃記憶に及ぼす影響 目撃者の確信度に着目して. 北海道心理学会.
- 名畠康之・仲真紀子. (2010). 正導事後情報と誤導事後情報が目撲者の記憶に及ぼす影響 参加者内比較. 認知心理学会.
- 名畠康之・仲真紀子. (2010). 正導事後情報と誤導事後情報が目撲者の記憶に及ぼす影響 出来事の中心・周辺性に着目して. 日本心理学会.
- 長坂邦仁. (2010). 社会心理学的な観点からの排出権取引ゲームの作成. 第2回サステナビリティ学生研究ポスターコンテスト. 北海道大学.
- 長坂邦仁・大沼進. (2010). 排出権取引ゲームの実演. 日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会2010年秋号 (pp. 27-30).
- 仲真紀子・石崎千景・山崎優子. (2010). 被害者・加害者の気持ちを推測する. 日本心理学会第74回大会.
- 大沼進. (2010). 集団資源回収への参加の規定因: 札幌市の取り組み事例. 日本社会心理学会第51回大会発表論文集 (pp. 38-39).
- 大沼進・北堀陽子. (2010). 罰だけでなく報酬も非協力行動を引き起こすとき: 産業廃棄物不法投棄ゲームを用いた検討(4). 日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会2010年秋号 (pp. 47-50).
- 大沼進・吉田文和・松藤敏彦. (2010). 札幌市におけるごみ・資源回収ルール変更の多面的評価. 第21回廃棄物資源循環学会研究発表会論文集 (pp. 7-8).
- 大瀬幸則・瀧川哲夫. (2010). 血液型ステロタイプが就職採用課題に与える影響—大学生による実験—. 日本社会心理学会第51回大会.

## 2010年度の業績一覧

- 岡隆・仲真紀子・平井洋子. (2010). 日本教育心理学会研究委員会企画 チュートリアルセミナー:学級で研究しようとする人のための心理学研究法入門. 日本教育心理学会第52回総会.
- 奥村安寿子・室橋春光. (2010). 読み書きに困難のある中学生2事例に対する英語学習支援の経過 一単語の読み書き指導におけるフォニックス法の有用性と意義についてー. 第10回発達性ディスレクシア研究会.
- 奥村安寿子・室橋春光・河西哲子. (2010). 日本人学習者による、英語單文における文末語の適合性判断—文末語の音韻情報の影響ー. 日本心理学会第74回大会.
- 奥山史亮. (2010). エリアーデの思想形成と第二次世界大戦の動向. 北海道哲学会.
- 奥山史亮. (2010). クリアースから見たエリアーデ宗教批判の再考. 日本宗教学会.
- 奥山史亮. (2010). 亡命者エリアーデの思想におけるエリアーデ宗教. 北海道基督教会.
- 小野田竜一・高橋伸幸. (2010). 内集団ひいき vs. 反内集団ひいき—進化シミュレーションによる検討ー. 日本社会心理学会第51回大会.
- 小野田竜一・高橋伸幸. (2010). 内集団ひいきvs.反内集団ひいき 集団内一般交換の成立. 北海道心理学会第57回大会.
- 小野田竜一・高橋伸幸. (2010). 内集団ひいきと反内集団ひいき 内集団ひいき行動の適応的基盤. 日本人間行動進化学会第3回大会.
- チャルテンジャブ. (2010). チベット我が故郷. 講座「日本を学ぶ2010」.
- 西條辰義・山岸俊男・亀田達也. (2010). 実験社会科学の未来. 第14回実験社会科学カンファレンス.
- 齋藤貴之. (2010). 北海道の鍛冶屋の歴史と現状ー利尻島に見られる北海道の漁業と鍛冶屋の関係ー. (社)日本鉄鋼協会第160回秋季講演大会シンポジウム「北の大地の金属文化を語る」.
- 齋藤貴之. (2010). 利尻島の鍛冶屋の変化と生存ー利尻島の磯漁とそれを支える鍛冶屋の関係ー. 日本民俗学会第62回年会.
- 佐々木超悦・犬飼佳吾・豊川航・黒阪健吾・亀田達也. (2010). 分配的公正感とリスク回避傾向は共通の心的基盤を持つー意思決定科学・法哲学・脳科学の連携による「正義」の行動的・神経的基盤の解明. 日本社会心理学会第51回大会.
- 佐藤剛介. (2010). 幸福感の規定因の文化差に対する社会生態学的アプローチー関係流動性の調整効果の検討ー. 日本心理学会第74回大会ワークショップ.
- 佐藤剛介・結城雅樹. (2010). 関係流動性が拒絶感受性と対人恐怖傾向に与える影響ー国際比較を用いた検討ー. 日本社会心理学会第51回大会.
- 佐藤剛介・結城雅樹. (2010). 社会生態学的アプローチによる自尊心の効果の検討 社会状況間比較研究. 北海道心理学会第57回大会.
- Schug, J., Takagishi, H., Okada, H., Miyazaki, M., & Yamagishi, T. (2010). The impact of theory of mind on fairness and reciprocity in preschool children. 日本認知学会第27回大会.
- 佐藤浩輔・大沼進. (2010). SVSモデルと伝統的信頼モデルの比較研究:ダブルバインド状況におけるシナリオ実験. 日本リスク研究学会第23回年次大会講演論文集 (pp. 295-300).
- 品田瑞穂. (2010). 信頼と信頼性の見きわめ能力:適応論的アプローチによる実験研究. 第1回行動学・進化学 北の研究会.
- 品田瑞穂・Max Krasnow・山岸俊男. (2010). 社会的知性としての一般的な信頼. 日本グループ・ダイナミックス学会第57回大会.
- 品田瑞穂・三浦アリ紗・橋本博文. (2010). 社会的リスクに対する回避傾向とストレスホルモンの関係. 北海道心理学会第57回大会.
- 品田瑞穂・山岸俊男. (2010). 地域間移動と帰属スタイル:インターネット調査を用いた検討. 日本心理学会第74回大会.
- 品田瑞穂・三浦アリ紗・橋本博文・山岸俊男. (2010). 社会的リスク回避傾向とストレス反応の関係. 日本人間行動進化学会第3回大会.
- 杉野佑太・阿部純一. (2010). 声の記憶に対して、話される文の有意味性が与える影響. 日本心理学会第74回大会.
- 杉野佑太・仲真紀子. (2010). 声の記憶に対して、言語の諸要素が及ぼす影響の検討. 北海道心理学会第57回大会.
- 高岸治人. (2010). うつ病が社会的意思決定に与える影響. 日本社会心理学会第51回大会.
- 高岸治人. (2010). 社会的意思決定の生物学的基盤. 日本認知学会第27回大会.
- 竹村明子. (2011). 高齢者の二次的コントロールと心理的健康. 日本発達心理学会第22回大会.
- 竹村明子. (2010). 高齢期におけるコントロール不可能な出来事への対処:二次的コントロール理論の検討. 日本教育心理学会第52回総会.
- 富永大悟・室橋春光. (2010). 時間再生課題による時間感覚の検討. 第28回生心理学会学術大会.
- 豊川航・犬飼佳吾・佐々木超悦・黒阪健吾・亀田達也. (2010). 豊かさか平等か?一分配選好の類型を探るー意思決定科学・法哲学・脳科学の連携による「正義」の行動的・神経的基盤の解明. 日本社会心理学会第51回大会.
- 豊巻敦人・坂井恵・豊澤悠子・室橋春光. (2010). 発達性ディスレクシアのある男児2例の事例検討. 第28回生理心理学会学術大会.
- 土田幸男・室橋春光. (2010). 視空間ワーキングメモリのトレーニングに関する効果と限界. 日本心理学会第74回大会.
- 上原周子. (2010). 中国青海省における多民族集落間の水争いとその解決ー解決方法の選択背景を探る. 日本文化人類学会第44回研究大会.
- 上宮愛・仲真紀子. (2010). 子どもの証言能力についての素朴理論. 日本心理学会第74回大会.
- 宇都宮輝夫. (2010). すこやかに人間らしく生きるために死生観. 北海道大学サステナビリティ・フォーラム 2010.
- 宇都宮輝夫. (2010). ひとが誘惑に負けるとき. 地域安全運動道民の集い.
- 宇都宮輝夫. (2010). 孤立する高齢者と犯罪. 安全・安心まちづくりシンポジウム.
- 宇都宮輝夫. (2010). 高齢者の孤立と逸脱行動. 北海道Wiープネットワーク.
- 和田義哉・室橋春光. (2010). 視覚性短期記憶における属性結合について. 日本心理学会第74回大会.
- 渡辺隼人・室橋春光. (2010). 持続時間変化検出における変化の方向性の影響に関する検討ー自閉症スペクトラム指數高得点者における違いー. 日本特殊教育学会第38回大会.
- 渡辺隼人・横澤宏一・室橋春光. (2010). 短縮持続時間MMNmと延長持続時間MMNmの違いに関する検討ー第40回日本臨床神経生理学会学術大会.
- 渡辺隼人・武田美帆・室橋春光. (2010). 実行意図の表明が展望的記憶に及ぼす影響. 日本心理学会第74回大会.
- 岸靖亮・室橋春光. (2010). 自身の証言に関する認知活動—ERPを指標とした虚偽検出検査からー. 第28回生理心理学会学術大会.
- 山岸俊男. (2010). ニチ構造としての文化. 東京大学社会科学研究所生涯成長型雇用システムプロジェクト第8回雇用システムワークショップ.
- 山岸俊男. (2010). ネット社会における評判と信頼. 国立情報学研究所 オープンハウス2010.
- 山岸俊男. (2010). 社会的リスク回避としての「ひきこもり」. 日本臨床発達心理士会第6回全国大会.
- 山岸俊男. (2010). 集団内協力と評判心理. 北海道大学大学院法学研究科GCOEプログラム「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」研究会.
- 山岸俊男. (2010). 信頼と安心. 医学教育シンポジウム「医のプロフェッショナリズムの新たな展開～互恵の利他主義に基づく社会契約とは～」.
- 山岸俊男. (2010). 心の社会性とは? 公開シンポジウム『世界のルールが変わる』人と社会を動かす利他×内発的動物づけ.
- 山岸俊男. (2010). 評判と信頼について. 統計数理研究所.
- 山口未花子. (2010). カスカの物語にみる動物観と今日の意味. 日本文化人類学会第44回研究大会.
- 山崎圭子・片山純一・室橋春光. (2010). 心的イメージと視覚的短期記憶保持時の処理過程の比較. 第28回生理心理学会学術大会.
- 李楊・品田瑞穂・三船恒裕・山岸俊男. (2010). 裏切り回避傾向とゲーム実験における行動. 日本社会心理学会第51回大会.
- 依藤佳世・安藤香織・大沼進・杉浦淳吉. (2010). 子どもの自発的な環境配慮行動に及ぼす親からの影響. 日本文化心理学会第51回大会発表論文集 (pp. 184-185).

## その他

- 2010年度に院生が獲得した学会賞・フェローシップ  
(学振特別研究員奨励費を除く)
- 李楊 ロータリー米山奨学生  
長坂邦仁 第二回北海道大学サステナビリティ研究ポスターコンテスト 北海道大学総長賞(最優秀賞)  
三浦アリ紗 日本人間行動進化学会若手発表賞  
宮崎義久・栗田健一 2010年度生活総研賞  
韓若康 北海道大学クラーク記念財団・クラーク賞  
橋本博文 Society for Personality and Social Psychology Graduate Student Poster Award Runner-up  
高岸治人 第一回日本学術振興会育志賞

## 院生セミナー

- 第16回GCOE院生セミナー 2010年5月26日 話者1:松山直樹(経済学研究科・専門研究員), 話者2:佐藤剛介(文学研究科行動システム科学講座)  
第17回GCOE院生セミナー 2010年6月23日 話者1:杉野佑太(文学研究科心理システム科学講座), 話者2:小野田竜一(文学研究科行動システム科学講座)  
第18回GCOE院生セミナー 2010年7月21日 話者1:小西達也(文学研究科宗教インド哲学専修), 話者2:森康浩(文学研究科行動システム科学専修)  
第19回GCOE院生セミナー 2010年10月27日 話者1:足立明夏(教育学院特殊教育・臨床心理学研究グループ), 話者2:豊川航(文学研究科行動システム科学専修)  
第20回GCOE院生セミナー 2010年11月24日 話者1:竹谷隆司(教育学院特殊教育・臨床心理学研究グループ), 話者2:会津祥平(文学研究科行動システム科学専修)  
第21回GCOE院生セミナー 2011年1月26日 話者1:滝澄子(文学研究科歴史地域文化学専攻), 話者2:佐々木超悦(文学研究科行動システム科学専修)